

イタリア ピストイア市の幼児教育・保育 —役務憲章に見る乳幼児期のインクルーシブ教育・表現活動の理念—

小 笠 原 文

Early childhood education and childcare in Pistoia, Italy —The principle of inclusive education and creative activities in early childhood as seen in the city's Public Service Charter—

Fumi OGASAWARA

This article is a research paper that presents an overview of early childhood education in Pistoia, Italy, a city with unique early childhood education policies, based on my observational studies, interviews with education coordinators in the city, as well as the city's Public Service Charter. Early childhood education and childcare in Pistoia city are distinctive for their entrenchment in the local community, promotion of the active participation of the children's parents and guardians, as well as their "holistic" approach both in terms of city space and the personnel involved. In addition, they extend the "inclusiveness" unique to Italian education into a modern context with respect for individual and cultural diversity. The educational activities in Pistoia city have been conceived of as a means to "offer children the experience of acknowledging their own actions, feelings, and intuitions, and to imbue them with meaning." From this perspective, they also emphasize giving children the opportunity for "aesthetic experiences."

キーワード：ピストイア市 Pistoia、幼児教育 early childhood education、表現活動 Early childhood education

1. はじめに

イタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育は、その独自性と質の高さで世界中から注目されている。わが国からも研究者や現場教員がレッジョ・エミリア市を訪れ、関連する多くの研究や報告が公開されている。一方で、レッジョ・エミリア市の施策については、教育政策というより、むしろ巨額の投資を伴う一事業的要素が強く、他の国や自治体が参考にし、実施するのは非常に困難であることも指摘されている。本稿は、国際的な知名度はレッジョ・エミリアに及ばないが、特色的な

幼児教育政策を展開するイタリアのピストイア市の幼児教育について、視察調査（Melograno幼稚園・Faro保育園）およびD. ジョヴァンニーニ氏（ピストイア市教育コーディネーター）とL. コンティニ氏（ピストイア市幼年期教育学校連合代表）へのインタビュー、そしてピストイア市の役務憲章を手がかりにその概要を描く研究資料である。この視察調査とインタビューは、科学研究事業（基盤研究（C）「乳幼児・児童期における芸術表現活動の構築－「美的経験」に着目した芸術実践と応用－」課題番号：17K04659）の助成を受けて行なった調査・研究の一部である。

2. ピストイア市とその幼児教育施策

ピストイア（Pistoia）市はトスカーナ州の州都フィレンツェから北西約33kmに位置する人口約9万人の都市である。中央集権的な教育システムを持つフランスや日本とは異なり、イタリアでは各自治体にかかなりの裁量権が認められ、特に0～3才児の教育に関しては、大部分が自治体に任されている。その結果、幼児教育における明らかな地域格差が生じているが、それに対しては「仕方がない」といった諦念も見受けられる。その理由として、例えば国際的に有名なレッジョ・エミリア市の施策は予算的にも人員的にも他の自治体が安易に真似できるようなものではないことが考えられる。イタリアが世界に誇るレッジョ・エミリア市の優れた幼児教育施策は、イタリアの他の自治体においては実現が不可能であるというアイロニカルな現状がある。そのようなイタリアの幼児教育の中で、ピストイア市は「職人的な」、スケールにあった教育施策、つまり他の自治体の参考になり、実施しやすい幼児教育を実践している自治体としてイタリア国内や近隣のヨーロッパ諸国で注目されている。

ピストイア市の予算全体に対する教育予算は18%であり、他の自治体と比較して、その割合はかなり高いといえる。1クラス幼児28人に対して教員が2人という教員の配置は、国立幼稚園と同等であり、特に少人数制という訳ではない。給与面でも月給1000～1500ユーロと国立幼稚園教諭と差はない。ただし、勤務時間の中で資料を読んだり作成したり、保護者との会議をしたりという「自由時間」に150時間が割り当てられ、国立幼稚園教諭との相違点となっている。ジョヴァンニーニ氏は「レッジョ・エミリアとピストイア、また他でも幼児教育に力を入れている自治体も、基本は同じ道を歩んでいる」という見解を示している。その特徴として、空間、時間、マテリアルの重要性、教員のクオリティの高さをあげ、さらには、保護者の参加を積極的に進めている点を強調する。特にピストイア市は地域に根差した教育を目指し、そこには政治・行政・教育の意欲がしっかりと交錯して同じ方向性を打ち出しており、このことについてジョヴァンニーニ氏は「自治体の教育施策として非常に重要なことである」と述べている。

ピストイア市における市立保育園の開園は1972年、幼稚園が1978年であったが、この時代はイタリアで全国的に行政が教育に目を向ける傾向にあり、どの自治体も積極的に教育に投資する方向であった。しかし、その全てが継続されたわけではなく、結果として現代の教育における地域格差が生じるようになった。ピストイアは、上記の3つ、つまり政治・行政・教育が絶えず団結して今日まで継続し、幼児教育都市として展開し、国内外での認知度を高めつつある。ピストイア市の教育・文化部局では「ピストイアで学ぶ」というプログラムを実施¹し、市が子どもたちのために企画した教育に関する実績を広く周知している。このプログラムは1日～5日の短期的なものと最短15日～6ヶ月までの長期的研修が用意され、国内外の教師、研究者、大学生を受け入れる体制を整えている。

3. ピストイア市の幼児教育の理念・方針

ピストイア市のMelograno幼稚園の壁にはPrimo Levi²の言葉「どこから来てもあなたは外国人ではない」という言葉が書かれているが、このフレーズはピストイア市の教育方針に合致するものである。それは、イデオロギーなしで多文化性を認め含めていく教育、つまりひとつのインクルーシブ教育の考え方である。現在ピストイア市の教育機関に就学する子どもの15%を占める外国籍の子どもの受容について、ジョヴァンニーニ氏は以下のように語っている。「私たちがどう受け入れるのかではなく、彼らから私たちはどう見られているのかを非常に気にしています。外国人だからという前提で私たちから見られているとは思ってはダメなのです。」

そもそも、イタリアはインクルーシブ教育先進国である。国際的には2006年12月の国連総会で「障害者の権利に関する条約」が採択されたことにより、多くの国でインクルーシブ教育が浸透していくことになる。「障害のある者となない者が共に学ぶことを通して、共生社会の実現に貢献する」といういわゆる「インクルーシブ教育（包括

¹ 文末に資料1を示す。

² プリーモ・レーヴィ（Primo Michele Levi, 1919-1987）イタリアの科学者・作家。

的教育)」の考え方が示されている同条約の批准に向けて、日本においては、2011年8月に障害者基本法が改正され、「可能な限り障害者である児童および生徒が障害者でない児童および生徒と共に教育を受けられるように配慮」とするとされた。わが国においては、「障害児と健常児が共に教育を受ける」というインクルーシブ教育はごく近年の動向と言える。一方で、イタリアにおいては特別支援学校が存在したのは1975年までであり、以後は全て廃校となり、保育園から高等学校まですべてインクルーシブ教育である。各州によって指名や任務は異なるが、それぞれの障害児のニーズをサポートする教員が配置される。その教員の役割はその児童だけを見るのではなく、その児童がいることにより生じる問題について、クラス全体として解決に導き、担任の教員のサポートもしていくことである。インクルーシブ教育実践について、ジョヴァンニニ氏は以下のように述べている。「(活動内容は) 社会性であったり、世界を見たり、肉体的に深くかかわったり (すること)、幼児が日々の生活を楽しく過ごせるよう、障害児を特別扱いしないことが、障害児にとっても健常児にとっても重要なことだと思います。」このように40年以上ものインクルーシブ教育の実績を持つイタリアであるが、ピストイア市では、イタリアも含め、ヨーロッパの現代社会が抱える移民問題に対して、「受容と承認」の教育力にその解決の可能性を見出している。

ピストイア市の教育施策の理念についてジョヴァンニニ氏は、モンテッソーリをはじめ、特定の教育思想家や哲学者がいるわけではないとする。モンテッソーリ思想からやってきたもののあれば、フロイドからきたものもあり、教育思想家や哲学者に限らず、アーティスト、ミュージシャン、社会学者、360度全方向からいろんなアイデアを拾い融合したものであると述べる。特にイタリアの教育学者モンテッソーリについては、ピストイアの教育施策において、インスピレーションを受けたことは認めつつも、彼女のモデルを踏襲したわけでは全くないと言い切る。モンテッソーリはイタリアではあくまで考え方の1つであり、逆に他国よりもモンテッソーリの学校の数に限られており「イタリアの幼児教育の根底とは言えない」という見解を示している。

4. ピストイア市の幼児表現教育

モンテッソーリの教育思想は「インスピレーションの一つ」だとするピストイア市の幼児教育であるが、実際に視察を行うと、その環境設定や活動内容は子どもの感覚（視覚や聴覚、触覚）を喚起するものが多いと感じる。例えばMelograno幼稚園では、さまざまなオブジェ（押し葉や金具、ガラス玉、ボタン、カラーセロファンなど）が箱に分類され、子どもたちがそれらを数日間かけて自由にプロジェクターやライトボックスの上に構成していく創作活動を行っていた。これらの平面構成は下からライトを当ててそのままの色や形、あるいは壁に映し出してその影を鑑賞する。(写真1～3)



写真1：箱の中にさまざまなオブジェがあり、子どもたちはそれらから選択し、配置あるいは変更していく。



写真2：プロジェクターの上に配置されたオブジェ。

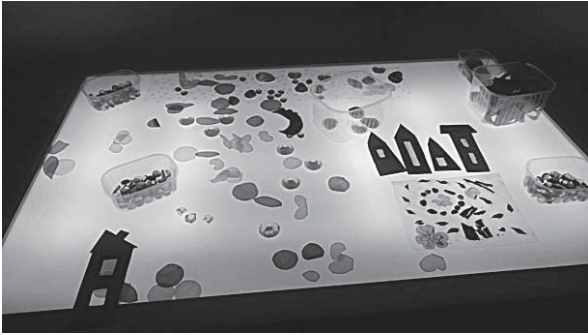


写真3：ピストイアの街をイメージした作品。
グループで構成する。

また、教室の壁面には様々な形態の時計が配置され（写真4）、午睡の部屋のライトは子どもたちが光と形、あるいはそれらの変化を意識するものであった（写真5）。それは、モンテッソーリが語る「子どもの感覚の喚起の重要性」に応えるものである。



写真4：時計は時間を知るためのものではなく、形や色という美的要素を持つ。



写真5：午睡の部屋には5種類の照明器具が置かれている。光が変色しながら動くものや水の中に渦巻きが生じるものなど。

上記の「ライトボックスの上でグループごとにオブジェを使って構成する」活動（Melograno幼稚園）以外に、「ピストイアの街を描く」活動およびその延長として「（街のシンボルである）クーポラをリサイクル素材で立体構成する」活動（Melograno幼稚園）、「お菓子のテーブルの下でごっこ遊び（演劇的要素）」活動（Faro保育園）などを視察したが、それらの活動について、ジョヴァンニニ氏は「芸術活動という『ラベル』はないのですが、身体的にも豊かな、示唆に富む、感情に訴える、創造する、環境の恵みを考える、知能的な…芸術的というだけでなく、そういう活動です。」と述べる。他にも、市内には「子どもエリア」というエリアがあり、それは青エリアはアート（芸術）、黄色エリアは物語（言語）、緑エリアは自然探検（科学）と3つの要素で構成されている。ピストイア市の教育・保育施設はセメスター毎にこれらのエリア使用回数（平均10回程度）を決めて活用している。年間を通した活動例として、ピストイア市にある要塞をテーマに絵を描き、さらに、それらを言葉で表現し、年度末に劇のような形で発表する総合表現的な活動が挙げられた。

幼児の音楽活動についてジョヴァンニニ氏はイタリア全体でその役割がものすごく低下していることを指摘している。ピストイア市については、なかなかすべてのものを取り入れられない現状があり、同様に低下をしているとした上で、幸いオルガンで有名な音楽アカデミーが市にあることでコラボレーションが実現できていると述べる。「日本のように1クラスにオルガンが1台あって、先生も皆オルガンが弾けてという訳ではない」が、音楽アカデミーの先生という本物のアーティストと子どもたちが活動を共にするのは素晴らしく、恵まれていることであるとしている。

また、こうした幼児の表現活動の目的、これらの活動を通して、子ども達に授けたい能力や資質は、「詩学、美学、世界に目を向けること、原因と結果の理解、愉しみ、空間察知、主観性」であると語る。

5. ピストイア市の役務憲章

イタリアにおける役務憲章とは公務員の職務について、基本的な方針や施策を記した文書を指す。1941年1月27日に閣議長の指示により義務化されたものであるが、とりわけ学校の役務憲章（1995年6月7日の閣議長令）は、この専門分野にとって、その質と自律の構築を強化するものである。それは、乳幼児期・幼児期の教育職務事例の中で（時に小学校にも範囲が拡大されるが）、職務を遂行する人間とそれを享受する人間との間、つまり、教育を享受する子どもと保護者、教育を受ける教職員や地域外の育成機関の間で生まれる、制度全体を定義している。

憲章は市の教育活動が透明性と改良性を持つことを表現し、一定の教育を行う上で絡み合う全ての事柄を結び付ける責任にスポットを当てている。憲章では、享受することができる教育の具体的な条項、また教育の質に関する持続的な成長や評価の機会利用についても明記されている。それは教職の責任者や保護者による協力から成り立っており、その検証と評価の基本方針について定期的に更新が行われ、関心を持つ人からの質問や提案が活性化するように公に発表され、市民に絶えず開かれたものである。

ピストイア市の幼児教育役務憲章は、類似の他の文書とは違い、その始まりは独特なものであった。もちろん、法律により制作されるべき文書であったが、同時にこの制作は、保育園、幼稚園、「子どもエリア」を発展と成功に導くプロジェクトでもあった。市の行政の選択は、既に行われていた幼児教育の実在を認める文書、またそれらの教育施設を享受する保護者や子どもと常に向き合う性質の文書を構築するというだけでなく、前提条件の設置や、普及後も継続する考えと相互作用を及ぼす過程を構築するという選択でもあった。この方法をもって、文書構築の基礎となる討論や意見交換の行程について、とりわけ、その普及やインターネットでの開示後に続く行程について、強調したいと考えていた。役務憲章の構築は、幼児教育の質に関する知への参入と共有をテーマの中心に据えた研究計画の一部であるといえる。

つまり、ピストイア市の3つの幼児教育施設（保育園、幼稚園、子どもエリア）という地域史の宝

となり、国内だけでなく外国からの多様な資料³から着想を得たものである。

この憲章は、これら全ての法令や市民的・教育的な要求が考慮されている。なぜなら、それらが一緒になって初めて、ピストイアの教育は日常生活に役に立つ幼児教育環境を整備し、0才から10才までの子どもとその家族に共通の成長機会を保障する。

ピストイア市の幼児教育施設の構造は、徐々にその特色を強め、幼稚園・子どもエリア・ラボラトリーを含む多種多様で多面的な体系となった。今日、市の教育施設は34カ所（保育園10、幼稚園14、子どもエリア4、ラボラトリー6）である。保育園では3か月から3才までの子ども、幼稚園では3才から6才までの子どもを受け入れ、「子どもエリア」と「ラボラトリー」は毎年約4000人の子どもたちを迎えている。これらが一緒になって、これらの教育施設は1つのネットワークシステムを構築し、資産センターの活動と結びついた教育コーディネイト活動によりサポートされている。それは、何年もかけて少しずつ構築されてきた特殊な現実であり、それぞれ単独の教育の営みを基礎とした、また皆が相互的に影響を与え合う過程でそれぞれを支える、複雑なネットワークである。

ピストイアの幼児教育は、町と地域のマクロコンテキストといくつかの選ばれた場所、つまり保育園、幼稚園、「子どもエリア」で行われ、特別な育成経験を実現するとし、ピストイア全体の教育マクロコンテキストを定めることは、その選択によって、ピストイア市が幼児期を専門とした教育事業に参画することを意味している。この教育事業を行うピストイア市および幼児教育役務憲章で指定された活動を行う専門家は、**1. 平等、多様性、共有、透明性：2. 成長コンテキストの組織における一貫性：3. 教育的任務における専門性、革新性、自主性、合議性：4. 幼児期の為の教育学**について憲章に記された原則に従うこととされている。

³ 1) 児童の権利に関する国連条約の主文（1991年法令176）
2) 欧州共同体の幼児のためのネットワークにより、1996年に示されたターゲット
3) イタリア憲法の3条、33条、34条
4) 学校における平等をテーマとした2000年の法令62番
5) 2002年のトスカーナ州法令32番
6) トスカーナ州によって制作された評価マニュアル（1998年）

6. 幼児期の為のピストイア教育学

町の歴史に根差した一貫性のある幼児教育を目指すピストイア市の幼児教育の定義は、市の教育全体の原則としての性質をもつ。それは、①前もって定義された1つ理論から生まれない。②すべてのレベルのオペレーターの考えが結合して行われる、実践を前提としたものである。③現在進行中の、あるいは直近の過去に完結した自己評価の責任を考慮する。④幼児教育において重要なラボラトリーを発見した専門的リサーチだけではなく、会議、訪問、イタリア国内外での発表の機会でのオペレーターの考察を豊かにする。⑤完成したとは考えず、むしろ継続性と参画性をもって作り上げていった結果であり、それは交流や会合、明確な経験の中で検証されながら少しずつ発展し、構築していくものであると考える。というものであり、この教育学には、いくつかのキーとなるアイデアがある。まず、Ⅰ：**“生活と文化の場である町全体が、子どもに役立つものであり、彼らの教育のための1つの資産を構築する。そして全市民が、その責任をもつ。”**(斜体:憲章の原文のまま)ことであり、つまり「教師、補佐の人員、コーディネーター、教育施設の責任者、内外の専門家、家族には、参加する事業において自身の教育的能力を磨くための、様々な機会が与えられる。一般市民は、幼児教育が行われる集団に属している。これら対象となる全ての人は、会合、情報マテリアル、教育プログラムへの参加などを通して、社会的教育事業とかかわりを持つことになる。つまり、町のエデュケーションプログラムと言っても、その名前以上の広い意味を持つものである。」と解説されている。

次にⅡ：**“幼児教育施設は、それぞれの子どもが成長の機会と源泉を見つけられ、迎え入れられる場所として考えられている。”**つまり「それぞれの教育施設は通う子どもたちのための生活の場として提示され、『子どもたちの尺度』で考えられ、やりたい・参加したい欲求を促進する提案が豊富な、明るく、心地よい場所である」とし、「これらの教育施設は生活の場であるが、子どもたちが自身の経験を豊かにしたり広げたりすること、また子どものリズムと個性に応じて、経験を作り出し明確に自己表現するための援助を受けられる、成長のコンテキストでもある」とした上で、「教

育は力づくではない、成長を促進するものであり、そこでは、学ぶことは共有と経験における考察による成果と考えられ、また仲間との結びつきや大人の仲立ちが基本必要条件を構築すること」が述べられている。そして、「成長とは360度全てを包括するものであり、認知的な成長だけでなく、それぞれの子どもが仲間との関係や大人が丁寧に傾聴することを通じて、ポジティブな自己認識が行える、とりわけ感動的で社会的なものであるとする。成長は、ステレオタイプではなく、興味や冒険心、異なる考えや協力を刺激する、学習の形を通じて行われる。成長は、全てを巻き込む、意図や経験の再解釈を自由に組み合わせた遊びの中での、大人と子ども間、子ども間での対話を糧とする。成長は、能力的または生み出したものの程度で評価されるものではなく、子どもが自分自身や子どもたちの間で得る絶え間ない最大限の信頼、子どもが表す関心、熱心に行う活動、関心をもつ関係、作り出す関係性で明らかになるものである。最後に、成長はそれぞれの子どもが大人と一緒に、全てを巻き込む、開かれた、子どもたちが活動の主役となる豊かな刺激を与えられる状況で得られる、経験、知識、能力を表現し、豊かし、広げることができるように導かれた、注意深い教育的監督の成果である。」と述べられている。

さらにⅢ：**“教育は特に、(子ども自身が)社会へ意味を与える行為を通して、子どもの独創力を深めるものである。”**について以下のように述べる。「経験とは意味を引き出し、それを概念化することであるが、子どもは遊びや想像力の訓練、生き生きとした感情の象徴的表現を通じて、子どもはそれらを解釈し、概念化する。」「このような象徴的な教育学は、子どもが自らの表現方法を考えることの訓練、社会的交流を通じた知的経験によって形成される。」

また、Ⅳ：**“教育は、子どもたちの美的感覚を深めるものである。”**については、「教育環境や教室の備品、さまざまな教育素材や『見ることを知る』教育法、さらには教育者の授業準備や専門的芸術経験は、子どもが『美しいもの』注意深く享受し、創作を行うことを可能にする。」と述べる。「これらの刺激の組み合わせは、子どもの世界を見る方法に留意したものであり、大人文化や地域伝統から選択され、教授されるものであり、それ

は子どもたちの知性と感情の源を豊かにする。」とし、「ピストイア市の教育経験の総体である美的教育では、本、物語、モニュメント、芸術作品、ミュージアム、祭りなどが乳幼児・幼児期の創作活動のインスピレーションとなっている。」と結論づけている。

V：“教育は、子どもと大人と、共にあるものである。”について、「この種の作業は、教育者を巻き込むものである。子どもを教育する大人は子どもから学ぶことに制限を設けることはできないが、また異なる知識をもつ大人と会って学ぶという確信のもと、教育的能力成長のための指導や刺激、機会や予算が組織的に提供される。」と述べる。「子どもと大人の間、大人間の平等な関係においては、聞くことや協力する習慣が必要であり、対話やサポート、自身のアイデンティティ構築の促進という、継続した経験を通じて安心感を与えるもの」がピストイア市の教育施設であるとする。

さらに、**VI：“幼児教育は、特殊性をもつものである。”**について、「このような教育学のモデルは、より高いレベルの育成機関であることを追求してはいけない。ピストイア市の幼児教育の現在の課題は、育成体系の各部分において自立し補完するモデルを定義することであり、そこでは保育園は幼稚園へ向けての予備教育ではなく、幼稚園も単に小学校への準備機関であるわけではない。」と断言する。「それぞれの発達レベルにおいて、子どもは多様かつ一貫性ある教育モデルを享受できなければならない。その教育モデルは、理論的観点から常により詳細で正確でなければならない、実践・方法論的観点から行動に移し、検証されなければならない」としている。

これらの幼児教育の具体的な実現方法、**VII：“ピストイア市の幼児教育は、下記を通して実現される”**については以下のように示されている。「(幼児教育任務に携わる市の)オペレーターと各家庭の教育的能力の構築は子どもの成長の継続性を保証するため、両者の協力関係のもと行わなければならない。(ピストイア市の幼児教育は)両者の相互理解を保証するために行われる。そのため、それぞれが描く教育モデルを実現する活動に対して、各家庭が積極的に参加していくことが必須条件となる。」「教育スタッフが基礎的かつ継続的に子どもの育成を行う。その活動の計画は教育方法

を考慮しながら更新され、子どもの文化的で専門的な欲求に満足感を与えるものである。そこでは、子ども個人やグループの行動は承認され、援助される。」「教育的な『場』で作り出される大小の文書。子どもは自身の行動の記録から自分自身を知ることができ、大人は体系的な参画が可能となる。また、子ども・大人ともに、発言・自己存在の表出が保証される。このキーとなるアイディアは、年間教育計画において検証され、発表される。」

最後に、**VIII：“この目的の為、ピストイア市は次のことを受け負う。”**という項目で、幼児教育における市の役割について言及している。「年間教育関連レポートや定期発行の教育資料は文書として共有される。この文書共有は、教育計画実施における教育実践者への支援と指導の手段である。これらの文書は教育活動の展開を見極め、到着点を設定するために共有され、省察の対象となる。」「教育任務についての継続的な自己点検や自己評価のための支援を行い、実現に導く。そこには、本役務憲章も含まれる。点検や評価は体系的な方策で、共有基準に照らし合わせて行われる。ここに適応される、それぞれの組織と役務の質に関する自己点検と自己評価の行程は、教育を享受する者(子どもおよび保護者)に対してのみならず、教育を実践する者(教育者)にとっても永続的な育成の機会となる。」

7. まとめ


幼児教育都市として展開するピストイア市の幼児教育・保育の特徴は、地域に根差し、子どもの保護者の積極的参画を促し、人間的にも空間的にも「街全体で」教育を行っていることがあげられる。また、イタリアの教育の特色である「インクルーシブ」の解釈を現代的に拡充し、個人や文化の多様性を尊重するものである。さらに、教育活動について、「子どもが自らの行為や感情・感覚を認識し、それらに意味を与えていく経験」と位置づけている。その観点からも「美的経験」の機会を子どもたちに与えることを重要視したものである。

資料1：プログラム「ピストイアで学ぶ」エントリーシート。

ピストイア市HP教育・文化局「ここで得られる知識と経験は、この分野ですでに仕事をしている方、教育的・組織的実践方法について深く考察したい方、またその両方に該当する方にとって、豊かな財産となるでしょう。」

Comune di Pistoia
Servizio Educazione e Cultura

STUDIARE A PISTOIA



SCHEDA DI ISCRIZIONE PER VISITE E TIROCINI

Ma sottoscritto/a _____
 Ente di appartenenza _____
 Via _____ n. _____ Nazione _____
 Recapito telefonico _____
 Indirizzo e-mail _____

CHIEDE l'iscrizione a

Visita di mezza giornata
 Dal _____ al _____
Numero e professione partecipanti _____

Visita per l'intera giornata
 Dal _____ al _____
Numero e professione partecipanti _____
 con pranzo all'interno del servizio (se possibile rispetto al periodo scelto)
 senza pranzo

Tirocinio
 Numero partecipanti _____
 Dal _____ al _____

Durante il periodo di tirocinio è sempre previsto il pranzo all'interno dei servizi, tranne nei giorni di frequenza alle areebambini.

TIPOLOGIA DI SERVIZIO DA VISITARE

Nido	(0-3 anni)
Scuola dell'infanzia	(3-6 anni)
Areabambini	(3-11 anni)

TEMA DI MAGGIOR INTERESSE DA APPROFONDIRE

PROBLEMI ALIMENTARI DA SEGNALARE
 (In caso di pranzo all'interno del servizio)

Luogo e data _____ Firma _____

ALLEGARE L'ELENCO DEI NOMINATIVI DEI PARTECIPANTI

L'ORGANIZZAZIONE DEGLI SPOSTAMENTI, DEI PERNOTTAMENTI E DEGLI INTERPRETI DOVRA' ESSERE GESTITA AUTONOMAMENTE DAI VISITATORI

Se richiesto sarà possibile inserire nel programma di visita:

- Un laboratorio all'interno della cucina di un servizio educativo
- Una visita alla biblioteca San Giorgio
- Una visita al museo Marino Marini per partecipare ai laboratori didattici

QUOTE DI PARTECIPAZIONE

Visita di mezza giornata
 €15,00 a persona al giorno (senza pranzo)

Visita per l'intera giornata
 €40,00 a persona al giorno (con pranzo all'interno del servizio)
 €30,00 a persona al giorno (senza pranzo)

Tirocinio
 €40,00 a persona a settimana (con pranzo all'interno del servizio)
 €160,00 a persona al mese (con pranzo all'interno del servizio)
 * nel periodo di tirocinio all'interno delle areebambini non è previsto il pranzo

MODALITA' DI PAGAMENTO

I pagamenti devono essere effettuati mediante bonifico bancario a favore del Comune di Pistoia.

COORDINATE BANCARIE:
 Cassa di Risparmio di Pistoia e Pescia – Sede di Pistoia – via Roma
 ABI: 06260 CAB: 13800 CIN: R C/C n° 101/01 intestato a "Comune di Pistoia – Tesoreria comunale"
 IBAN: IT48 R 06260 13800 000000101001 BIC SWIFT: CRFIIIT3P
 Si ricorda di specificare dettagliatamente la seguente causale: VISITA SERVIZI EDUCAZIONE

Le schede di iscrizione devono essere compilate in tutte le sue parti inviate all'indirizzo di posta elettronica m.meloni@comune.pistoia.it

参加費用：視察半日15€、1日40€／研修1週間あたり40€、1ヶ月あたり160€（どちらもプログラム内で昼食あり）／大学教員やそれに準ずる者、市や州の管理職員は参加費用が無料になる。